

2. 今もある姿

今も見る事ができる、かつて白河市内にあった江戸時代に建てられた水車小屋です。先の絵図面や調査で見つかった水車跡ともほぼ共通する、米つきの作業場の様子を見ることができます。石臼（いしうす）は調査で見つかったものと同じ作りのものです。

屋内で回る水輪の両側には、石臼が2列ずつ並べて埋められています。水輪の回転は、歯車を使って同時に2本の心棒（しんぼう）に伝えられます。心棒につけられたつめは、回転とともにたてぎねにつけられたなで木を押し上げます。なで木からつめが外れるとたてぎねが落ち、石臼に入れられた米をつきました。



会津若松市 会津武家屋敷の水車 白河市道場小路から移築されたものです。